

○ 日本側所蔵記録

資料番号	J. II-9	資料名	宗対馬守護行帰路行列図
------	---------	-----	-------------



卷子装 紙本著色 〔縦×横〕 28.5×1451.0、1321.7、1590.6、1255.cm

1711年の朝鮮通信使を先導・護行した対馬藩の道中行列の様子を描いたもの。陸路の道中、対馬藩主は朝鮮通信使よりも少し早く宿舎を出発して、街道の安全、昼休みの休息所や宿泊する客館の様子を事前に確認するとともに、要所では通信使を待って合流し、ともに進んだ。そのため、本図では朝鮮通信使は登場しておらず、先発した対馬藩の行列のみが描かれている。

朝鮮通信使を護行した対馬藩の道中行列の全容を知ることができる唯一のものである。

なお、本図も制作時は1巻であったが、その後4巻に分巻されて伝来している。作者や制作経緯、意義などについては、J. II-8と同様。

資料番号	J. II-10	資料名	延享五年朝鮮通信使登城行列図
------	----------	-----	----------------



(図版は部分)

卷子装 紙本著色 〔縦×横〕 34.8×552.5cm

1748年6月、朝鮮通信使が使行の目的である朝鮮国書を徳川将軍に伝達するため、江戸城に登城の様子を描いた記録画である。作者は、朝鮮通信使行列を見物していた群衆の一人である。朝鮮通信使が登城する日は、江戸の町は臨時の休日となり、人々は大挙して朝鮮通信使見物に出かけた。

この絵は、大勢の群衆に見守られ江戸城に向かって行進する朝鮮通信使をありのままに描くとともに、群衆の朝鮮通信使に対する率直な感想や噂話、正使などの人物評などを細かに記述しており、当時の人々の朝鮮通信使に対する認識を知ることができる。